

## 平成31年度第1回阪南市子ども読書活動推進会議

開催日時	令和元年6月27日(木) 午後2時
閉会日時	令和元年6月27日(木) 午後4時
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	委員長 森本 典子 (阪南市子ども文庫連絡会)
	副委員長 濱野 直樹 (生涯学習部学校教育課)
	委員 後藤田 郁子 (市民公募)
	委員 頭師 康一郎 (市民公募)
	委員 東堂 美幸 (子どもNPOはらっぱ)
	委員 谷本 美由貴 (阪南市みんなの図書館を考える会)
	委員 福井 貴子 (泉鳥取高等学校)
	委員 下林 奈央 (鳥取中学校)
	委員 山本 千恵 (はあとり幼稚園)
	委員 金子 佳代 (下荘保育所)
欠席委員	委員 隅田 恭子 (子育て総合支援センター)
	委員 川原 拓真 (こども未来部こども家庭課)
	委員 藪内 かおり (健康部健康増進課)
	委員 秋山 秀子 (生涯学習部生涯学習推進室)
	委員 加藤 靖子 (生涯学習部図書館)
	委員 大塚 尚子 (はんなん子育てネットワーク)
	委員 佐藤 萌香 (阪南市社会福祉協議会)
	委員 下岡 加奈子 (桃の木台小学校)
事務局出席者	図書館主幹 森下 喜代子
	図書館総括主事 籠谷 早織

# 平成31年度第1回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

挨拶	会長 事務局
<b>案件1</b>	<b>委嘱状交付（委員紹介）</b>
教育長	阪南市子ども読書活動推進計画は、今回第三次になる。 阪南市は、市民の読書活動への熱意、子どもたちの意欲が高いと感じられる。 子どもたちの読書の推進のためにお力添えをよろしくお願いする。
<b>案件2</b>	<b>会長・副会長選出</b>
事務局	会長を森本委員、副会長を濱野委員に選任
会長	挨拶
会長	それでは、平成31年度第1回子ども読書活動推進会議の議事に移る。 始めに、阪南市子ども読書活動推進計画の概要の説明を事務局にお願いする。
事務局	阪南市子ども読書活動推進計画の概要を説明  (子どもNPOはらっぱ代表 — 退席)  (委員自己紹介)  (事務局自己紹介)
<b>案件3</b>	<b>平成30年度の取り組み報告について</b>
会長	次に平成30年度の取り組みについて、成果と課題を発表してもらいたい。
A委員	幼稚園では、絵本コーナーを充実させた。担任が読み聞かせを実施した。保護者にサークル活動として、絵本の読み聞かせをしていただいた。地域のボランティアに継続して来てもらうことで、園児と顔見知りになっている。図書館見学の実施により、家族での図書館利用につながっている。まい幼稚園で「えほんのひろば」を実施した。親子登園、体験入園のときにも絵本の読み聞かせをしている。毎月の園日より家庭読書の日を周知している。
B委員	保育所では、0歳児から絵本タイムを設定し、年齢にあった絵本の読み聞かせをした。言語担当者を配置し、リクエストを聞いて図書館で絵本を借りた。玄関ホールで季節の絵本、おすすめの絵本を掲示した。年1回から2回、5歳児は図書館見学を行い、1人1冊本を借りて保育所で読んだ。年齢にあった月刊絵本を保育所で読み聞かせして、保護者に紹介して持ち帰ってもらっている。園庭開放時に絵本コーナーで絵本を紹介した。
C委員	子育て総合支援センターには、0歳から3歳の年齢別に分けた親子教室がある。ファミリーシアターで絵本に親しんでいる。出前保育も実施している。ボランティアに1歳児への読み聞かせなど親子で楽しめる遊びを提供してもらった。絵本に関する子育て講座を3講座、絵本ミュージカル、お父さん向けの講座、お母さん向けの絵本で遊ぶ講座等を実施した。子ども文庫の活動も掲載したカレンダーを作成した。
D委員	市立保育園・認定こども園には、それぞれ特色がある。特に桃の木、アルンについては、ブックコーナーを設置し、保護者と子どものふれあいの場としている。各園ではイベント等を利用して本に接するようにしている。
E委員代理	保健センターでは、4カ月児健診時に図書館と連携して12回ブックスタートを実施した。月1回の赤ちゃん相談のうち年間2回阪南市子ども文庫連絡会に来ていただき、読み聞かせしてもらった。健診の待ち時間を過ごすロビーや保育場所にも絵本を設置している。おもちゃと絵本を一緒に置いてフリースペースとしている。親子連れが来られるので、図書のポスターも掲示している。

F 委員	8 か所すべての留守家庭児童会で、読書習慣を身につけるための取り組みをしている。ふれあい号を利用し、毎月発行するホームだよりに家庭読書の日のPRをしている。外部講師を呼んで読み聞かせの研修も実施している。わくわく教室では「えほんのひろば」を開催した。
G 委員	各中学校で専任の司書と連携し、朝読書の時間を設けている。図書委員会と司書、図書担当も連携している。展示物の作成、図書だよりの発行などしている。昨年実施した「えほんのひろば」では、時期が学期末の懇談期間だったので保護者、生徒だけでなく、そのきょうだいもひろばの本を楽しんだ。調べ学習には市立図書館の本を利用している。
H 委員	高校では、ビブリオバトルを8月と3月の2回実施した。8月は市内の中学生も参加した。3月は一般募集したので、小学生から70歳代まで参加があった。和大的教育ボランティアの学生が英語科だったので、図書館で30分間英語で楽しむ「イングリッシュタイム」を実施した。臨床心理士の勉強をしている府立大学の実習生には、生徒の話を聞いてもらったり、勉強を見てもらったりしている。1年生限定で学級文庫を始めた。
I 委員	図書館を考える会では、学校教育課の先生に話を聞いた。図書館の指定管理や学校司書、財政状況について勉強会を実施した。大阪府子ども文庫連絡会の講座の中で図書館の充実についての回に参加した。
副会長	小学校では国語科が中心になってくるが、その中でもプレゼン力を学習活動の中に取り入れる割合が増えてきている。本の帯を作ったり、ビブリオバトルにも参加したりした。学校司書が課題図書の紹介だけでなく、同じ作者の別の本など関連した本を図書だよりで紹介し、視野を広げた。司書に意欲があり、研修の回数が多い。一番の目標は、全小中学校が5日間図書館を開いているようにすること。桃の木台小学校ではビブリオバトルを2、3年前から実施しており、府の教育庁から求められて実践事例の報告をすることになっている。
会長	阪南市子ども文庫連絡会は、つくし文庫、いずみ文庫、どんぐり文庫、あたごもだち文庫、箱作子どもの本の会、阪南市おはなしの会で構成されている。それぞれ活動しながら、年1回勉強会か講演会を実施している。地域や社協と連携して出前文庫等をしている。阪南おはなしの会は小学校、幼稚園、保育所を回っておはなし配達をしている。
I 委員	つくし文庫は地域福祉委員と一緒に活動している。保健センターや子育て総合支援センターにお世話にもなっている。地域に子どもがいないわけではない。借りて返さなくてもその場でゆっくり本を読む、保護者も安心できる安心安全な場所に本があるというかたちになっている。昨年度はわくわく教室と開庫日が同じになっていたが、今年は違う曜日にしていただけてよかった。保健センターの赤ちゃん相談では絵本の紹介をしている。文庫は、小さい子のために午前を開けるなど地域ごとに工夫している。
J 委員	図書館が一番力を入れたのは、「えほんのひろば」である。「えほんのひろば」とは、段ボール製の面展台40台程に300冊程の絵本を並べて実施する。読む本より見る本が多く、全体の1/3程が大人向けの写真集である。ボランティアスタッフの養成、教職員向けの講座に始まり、下荘小学校、上荘小学校、まい幼稚園、飯の峯中学校でもさせていただいた。地域交流館のイベントは中止となったが、サラダホール前で実施した。 「えほんのひろば」を実施している図書館は増えてきているが、野外での実施は初めてだと思われる。市内すべての園・学校で恒例行事となればよいと考えている。
会長	質問はないか。
K 委員	子育て総合支援センターと公立幼稚園・保育所がブックコーナーを設置されているが選書の方針はどうか。使っていくうちに古くなると思うが、買替えの予算があるのか。
A 委員	幼稚園では、家庭から絵本代を徴収して買う本もある。保護者が廃品回収をして、得たお金で、絵本を購入させてもらっている。
B 委員	保育所では、予算はないが定期的に少しは絵本、紙芝居を追加している。保護者から雑費を徴収しており、その中から本を買っている。

C委員	子育て総合支援センターでは、リサイクルの本を利用したり、交付金で購入したりしている。
K委員	阪南市の自治体としての図書費というものは、ないということか。
C委員	子育て総合支援センターでは、図書費はないと思う。確認しておく。
L委員	朝の読書タイムは、どれぐらいあるか。
B委員	絵本が1冊読めるくらいの時間である。それほど長くはない。
L委員	言語担当者はどのように本の選定をしているか。
B委員	季節にあったもの、七夕の由来など、子どもが興味をもつ絵本を発達に応じて選んでいる。
L委員	小学校で学校図書館を5日間開けるのは、司書がいないと難しいか。
副会長	休み時間に開けるのは厳しい。担任が授業の枠で図書館を開けることはある。貸出返却だけであれば担任がすることもある。昼休憩や朝に開けるのは司書がいないと難しい。
L委員	自分が子どもの頃は常に開いていた。
副会長	貸出にパソコン業務などが入り、複雑になっている。学校間で貸し借りができるなど、便利な面もある。
K委員	小中学校では除籍に対してどの程度、新しい本が購入されているのか。
副会長	各校で予算の範囲内で購入している。
K委員	阪南市の子どもたちの読書活動が充実する予算が確保されているのか。
副会長	どれだけあると充実するのは、判断が難しい。学習指導要領では、図書館を利用するのは国語だけでないと言われている。国語以外で学校図書館を活用した公開授業を見に行った。社会、理科、算数、体育での実践もある。図書館は読み聞かせだけでなく、国語の枠をこえて、調べ学習など活用するようにしていくべきである。
K委員	図書館を文学以外にも利用することが必要である。阪南市の子ども読書活動の中でどれだけ実践されているのかと思う。学校図書館専任司書のスキルアップ研修も行われているが、阪南市でも外部に行って学んだり、講師を招いたりしているか。
副会長	直接の機会は今のところないが、外部から学んだことを学校司書に自分が伝えることはしている。新刊フェアやセミナーに参加することはある。先生方と一緒にいくことはしていない。
K委員	国語と英語との連携はあるが、理科社会数学とはないように感じる。先生への周知は行っているか。
副会長	新学習指導要領の中で、モデル授業として活用していこうとしている。先生の研修は行っているが、まだまだ道半ばの段階である。少しずつ浸透しているものと思う。
会長	その他の補足説明はあるか。
事務局	推進会議は年2回の開催で、1回目で計画を、2回目で取り組みの結果を報告していただくが、前年度は計画の策定があったため、今年度に取り組みの報告をしていただいた。
<b>案件4</b>	<b>平成31年度の新たな取り組みについて</b>
会長	平成31年度の新たな取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

事務局	第三次計画では、施設や機関が違っても“本の楽しさを共有する”をテーマに掲げ推進していく方向とした。財政状況、職場環境等厳しい中ではあるが、これから5年間で何ができるか探っていきたい。
会長	新しい取り組みについて発表してほしい。
H委員	緑ヶ丘地区限定だが、泉鳥取高校図書室の本の貸出を夏休みから開始する予定である。市内全域に広げていきたい。地域の方への学校見学を実施してきて、地域と連携がとれてきた。国語以外の教科でも図書館の利用をしている。社会科が多い。図書館が教室と離れており、騒いでも声が届かないという理由で、英語のスピーキングテストの待機場所としての利用があった。
会長	福井委員の発言を聞いて、こういうこともできるのかと気付かされる。
G委員	昨年度は中学校の教育研究会と連携してビブリオバトルを行った。今年度は積極的に関わり、各中学校代表を募って参加したい。学校司書の勤務が週2日なので、何をするにも時間が足りない。図書館をもっと活用したいと思っているが、使えていない。
H委員	高校では、ビブリオバトルに中学生に参加していただくほか、一般公募もするので、市立図書館からも参加していただきたいと校長から言われている。
C委員	今年度も子育て総合支援センターで絵本関連の講座を実施する予定である。
事務局	図書館では、大阪府新子育て支援交付金を利用し、「えほんのひろば」の継続と「絵本で育む子どもとのふれあい事業」として、11月に人形劇「11ぴきのねこ」(クラルテ)と絵本作家長谷川義史さんの絵本ライブ、ワークショップを実施予定である。これは、図書館開館30周年事業でもある。また、計画13ページの課題に上げている市内の少年院との連携について、和泉学園への団体貸出を始める。府立図書館の団体貸出用セットを用いて、貸出を行う予定である。和泉学園でも院生の社会貢献としてブックエンドの寄付をできないか調整してくれている。
会長	しかし、なんと言っても学校図書館司書の数が減ってしまったことが残念である。全校設置を目指してほしい。
K委員	阪南市に何が不足しているのか。他市と比べてどうなのか。予算を獲得するために、どれだけ情報を収集しているのか。読書活動の必要性を議会や市長に訴えてほしい。
<b>案件5</b>	その他
全委員	なし
<b>案件6</b>	事務連絡
事務局	2回目の会議では今年度の取り組み結果を報告いただきたい。令和2年2月頃を予定している。本の楽しさを共有するという理念に基づく具体的な取り組みの報告をお願いします。
会長	他に質問はないか。
全委員	なし
会長	以上をもって、会議を終了する。